

# 応募用紙の記入例とポイント

なるべく審査基準を  
満たすよう心がけて、  
活動をアピールしましょう！

P1

## 記入例

### 『家の光』9月号「もっと知りたいSDGs」 JA女性組織 SDGs 活動コンテスト応募用紙

※⑥の活動の内容について、行数が足りない場合は行を追加してご記入ください。

#### ① JA女性組織名(もしくはグループ名)

JAいえのひかり女性部 ちゃぐりん支部 子ども食堂グループ

#### ② 組織やグループの区分(○をつけてください)

JA女性組織 (全体)     支部やブロック等     班やグループ等

#### ③ 活動している JA 女性組織やグループのおおよその人数

平均 20 人

#### ④ JAの連絡先・住所・電話番号

JA担当部署・担当者名 JAいえのひかり 暮らし応援部 家野光子

住所 〒0000-△△△△ □□県××市0000町△△-□□

電話 △△△△-〇〇-□□□□

#### ⑤ 活動名

子ども食堂の運営

#### ⑥ 活動の内容と成果 (700~800 字程度を目安に)

2019 年から女性部のグループ活動として子ども食堂の運営をしています。きっかけは「子どもの貧困問題」の報道に触れ、「わたしたちにできることはないか」という部員の声からでした。女性部役員で話し合い、子ども食堂の運営に挑戦しようと全女性部員にアンケートをとったところ、30 人が協力の意思を示してくれました。そしてJAや社協などにアドバイスをもらいながら、活動開始にこぎつけました。毎月第3土曜日、調理施設のあるJAの支店で開催しています。当初はバイキング形式での食堂でしたが、コロナ禍で現在はお弁当の配布に開催方式を変更しています。『家の光』などの料理記事を参考に、地元野菜をふんだんに使った5~6種類のおかずとご飯に加えて、部員お手製のお菓子もつけています。高校生以下は無料、大人

POINT

1

書ききれない場合は、行を追加して3枚以上になってもOKです。ただ、できるだけコンパクトに、審査基準に加えて自分たちの思いやアピールポイントがしっかり伝わるように工夫しましょう

POINT

2

たとえば、これまで取り組んできたみそ造りの活動を、SDGsを意識したことで、みそを使って“おいしく食べきる”料理教室やオリジナルレシピ作り発展させたなど、新しいチャレンジやわくわくする広がりをおアピールしましょう

P2

## 記入例

は200円で、毎回、100食の弁当が約1時間で配布終了となります。共働きで土曜日も母親が家にいない子どもから地域の高齢者まで幅広い人たちが、毎回弁当を楽しみにしてくれています。食材は女性部員をはじめとする農業者や地域のスーパー、食品会社から寄付してもらったほか、一部は市やJAからの助成金を活用して購入しています。わたしたちが住む××市は県庁所在地周辺の都市部のベッドタウンとして宅地化が進み、新規住民も増えています。こうしたなか、子ども食堂の取り組みを通じて、「地域の子どもの目に届くようになり、声をかけやすくなった」という部員の声も聞かれます。また、子ども食堂の活動がきっかけで小学校とも交流が生まれ、女性部員が小学校に出向いてみそ造りなどを教える食育授業も実現するなど、活動の幅も広がってきています。

#### ⑦ SDGsの17の目標との関連性(とくに結びつきの強い目標を3つまで選び、どのように関連しているかを簡潔に記入してください) (1項目150字程度を目安に)

#### 2. 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する

**2 飢餓をゼロに** 「子どもの貧困問題」の解決という目標をみんなで共有して活動しています。活動に参加する女性部員の中には、子ども食堂へ野菜の提供を始めるために、自身が栽培する野菜の種類や面積を増やした人もいます。また、この活動をきっかけに、地域の耕作放棄地を活用して女性部員でダイズ作りに挑戦し、食育授業のみその原料の一部に活用しています。

#### 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

**3 すべての人に健康と福祉を** 弁当の配布対象は子どもだけでなく、安価な200円で大人や高齢者にも提供しています。また『家の光』で、コロナ禍でアルバイトができない大学生に食材を提供したというJA女性組織の記事を読み、わたしたちも地域の大学生や留学生に子ども食堂の利用を呼びかけました。今では留学生がスタッフとして手伝ってくれるなど、国際交流にもつながっています。

#### 4. すべての人々に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

**4 質の高い教育をみんなに** 子ども食堂がきっかけで始まった食育授業では、みそ造りを通じて、ダイズがみそになるまでの過程を体験することで、食のたいせつさを学ぶとともに、地域の食文化を伝えることにつながっています。ダイズの栽培についても、紙芝居にして伝えるなど工夫して、子どもたちが理解しやすいようにしています。

POINT

3

活動内容や成果の補足資料として、活動の様子を撮影した写真(5枚以内、裏面には写真番号と説明コメント、JA女性組織名またはグループ名を記入)を添付してお送りください。メールで応募する場合は、わかるような説明文を添えてください。またチラシや配布資料など(3枚以内)の添付も認めます

POINT

4

日本はSDGsの目標5、12、13、14、15、17の取り組みがとくに遅れているといわれています。みなさんの活動でこれらの達成に貢献できることがあれば、アピールしましょう

## 審査基準

- ① 全国のJA女性組織において幅広く模範となる取り組みであるか
- ② 多様性という視点が活動に含まれているか
- ③ 自らが当事者となって女性の声を反映し、主体的に参加しているか
- ④ SDGsの目標を総合的に解決する視点を持って取り組んでいるか

応募用紙はこちら! →

下のURL、もしくは  
右の二次元コードから  
ダウンロード  
してください



<http://www.ienohikari.net/press/hikari/boshu/002628.php>